

2022年1月14日

各位

会社名 株式会社メタリアル
代表者名 代表取締役 五石 順一
(コード番号：6182)
問合せ先 取締役 荒川 健人
グループ管理本部長
(TEL. 03-6685-9570)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2021年11月30日に公表した2022年2月期の連結業績予想を、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年2月期連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

	売上収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,910	610	450	未定	未定
今回発表予想 (B)	4,155	220	未定	未定	未定
増減額 (B - A)	△755	△390	-	-	-
増減率 (%)	△15.4	△63.9	-	-	-
(ご参考) (2021年2月期)	4,004	75	50	△68	△6.53

(ご参考) 2022年2月期連結業績予想 セグメント別売上高、営業利益 (連結)
売上高 (単位：百万円、%)

セグメント	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
MT事業	3,480	2,930	△550	△15.8
HT事業	1,430	1,220	△210	△14.7
メタバース事業	-	5	5	-
その他本社費等	-	-	-	-

なお、2021年12月22日に開示した「報告セグメント名称変更に関するお知らせ」の通り、

従来「GU（グローバルユビキタス）事業」としていた報告セグメントを「メタバース事業」へと変更しております。

営業利益 (単位：百万円、%)

セグメント	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
MT 事業	720	540	△180	△25.0
HT 事業	260	170	△90	△34.6
メタバース事業	△350	△470	△120	△34.3
その他本社費等	△20	△20	-	-

(ご参考) 2021年2月期連結業績実績 セグメント別売上高、営業利益 (連結)

(単位：百万円)

セグメント	売上高	営業利益
MT 事業	2,755	117
HT 事業	1,248	190
メタバース事業	0	△168
その他本社費等	-	△64

2. 修正の理由

MT 事業の第3四半期においては、第2四半期から企業動向に大きな変化はなく、2021年2月期より試みていた「コロナ禍での新しい営業活動 (※)」でもある Web を中心とした営業活動を行い、主軸製品である『T-400』・『T-3MT』を取り扱うドキュメント AI 自動翻訳部門では、概ね想定通りの着地となりましたが、新プロダクトである音声翻訳部門に関しては、想定を下回る着地となりました。

※従前の展示会によるリードの創出に高く依存していた受動的なスタイルから、既存のお客様への業務改善・プロダクトミックス提案やウェビナー開催等による積極的かつ能動的なコンタクト機会の創出等を中心に行っております。

なお、ドキュメント AI 自動翻訳部門においては業績予想上の根拠となった受注計画に対してオンラインで推移しており、堅調な状況となっております。

第2四半期決算短信において記載しました「成熟フェーズへの切り替え」を実行した結果、現在ご契約いただいているお客様の活性化により、利用拡大、受注単価増へと繋がっております。

また、自動翻訳市場の更なる拡大へ向けた産業翻訳業界への啓発活動を加速させております。新プロダクトである会議音声翻訳ツール『オンヤク』、ウェアラブルデバイス向け『T-4P0』シリーズをはじめとした、音声翻訳部門においてはお問い合わせ、商談件数は従前と変わらず多いものの、受注額、受注件数は当初の計画で想定した伸び率には届かない結果となりました。ただし、

市場としては徐々に開拓されている状況にありますので、今後も受注拡大に向け活動いたします。

第3四半期時点でのMT事業の対年度業績達成率は当初設定した計画に対して音声翻訳部門の想定伸び率が計画値と乖離したため、下振れした結果となりました。

年間決算においても、音声翻訳部門の乖離を吸収するには至らないことが想定され、業績予想は売上高3,480百万円から2,930百万円、営業利益720百万円から540百万円へ下方修正されたものとなります。

HT事業においては、2021年7月～8月にかけての新型コロナウイルス第5波による営業活動・受注鈍化の影響が足元において顕在化しており、また、現時点において発生している新型コロナウイルス第6波の影響も鑑みて、業績予想売上、営業利益を修正することとなりました。

メタバース事業では、特に今期上半期において、前期ペースよりも人件費を中心とした費用が増大したため、業績予想を修正することとなりました。

なお、新型コロナウイルスの収束時期は依然として見通しにくく、2022年2月期中は新型コロナウイルス感染拡大による影響について不透明な状況は継続するものと想定しております。

3. 経常利益の予想について

前回発表予想においては、2020年7月14日に発行した新株予約権の行使に伴い発生する調達費用の影響が大きく、予想算定上は同行使による営業外費用160百万円の計上を仮定しておりましたが、現時点における同新株予約権にかかる権利行使数の見積りが非常に困難であるため、これまで親会社株主に帰属する当期純利益のみ当期連結業績予想を未定としておりましたが、今回より経常利益の当期連結業績予想についても、未定としております。

以上